

3. 成長ホルモン分泌刺激試験

【目的】成長ホルモンが十分に分泌されているかどうかを調べる検査です。

【方法】腕から採血し、血液中に含まれる成長ホルモンの量を検査します。

薬で下垂体を刺激し、成長ホルモンの分泌を促し、その量を測ります。（検査時間：約1時間～3時間）

○ 検査手順

- ①成長ホルモンの分泌を促す薬を投与します。
- ②約30分間、ベッドやソファなどで横になり安静にして待ちます。
- ③そのまま安静を保ちながら、一定時間ごとに4～6回くらい採血します。



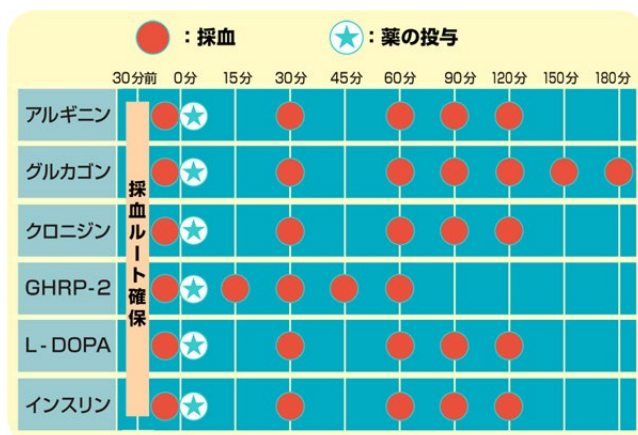
※はじめに腕の静脈に注射して、そこから必要なときだけ採血します。何度も痛い思いをすることはありません。

※成長ホルモンの分泌量は、時刻やその日の体調によって異なります。

そのため、異なる薬を使って、同じ検査を日を分けて2回以上行っていただきます。そうすることでより正確に診断することができます。

【負荷試験に使う検査薬】

(成長ホルモンの分泌を促す薬)



図：投与スケジュール

【副作用】

検査薬	投与後	症状
アルギニン	———	この検査で特に具合が悪くなることはあまりありません (点滴の漏れを起こすと、腫れたり跡が残ることもあります)
グルカゴン	約1～2時間	冷や汗、空腹感、腹痛、脈が早くなる、 眠気、顔が青白くなる
クロニジン	約1時間	眠気
GHRP-2	約15～30分	からだか温かくなる
L-DOPA	約30分～1時間	吐き気
インスリン	約15～45分	冷や汗、空腹感、腹痛、脈が早くなる、 眠気、顔が青白くなる

図：副作用

検査中～検査後に、気になる症状が現れた時は、
すぐに医師や看護師にお知らせください。